

メールレター(46)

冬時間

冬時間になりました。朝起きると、時計を1時間遅らせることになります。7時に起きても、時計は6時に合わせ直します。以前は家中の時計を調節するのに走り回りましたが、当節はデジタルですべて自動的に変わります。便利なようで、どこか忘れ物をしたような味気なさも感じます。日が短くなり、夜明けは7時頃になり、太陽は8時過ぎに登りましたから、冬時間になって、どうにか自然の動きについていけるのかもしれませんが。

今朝は、突風が吹き、初雪がグレーのカーテンのように空を覆っていました。町並みを白く薄化粧をし、雪はあっという間に止んでしまいました。こうして、季節は巡っていきます。あー寒いこと！季節の変わり方は過激で、その分ケベックの人たちはアップアンダウンが激しい気性なのだ聞いたことがあります。

世界中に新型コロナ感染が増え、半年前の感染騒ぎの頃に舞戻ったかのようです。モントリオールでは、自主隔離になって一月が過ぎ、またもう一月延長されました。ここ一月間はコロナのなかでハローウィンはどうするか憶測が飛び交っていました。仮装した人たちの集まりはなく、ソーシャルディスタンスを守れば、子供達は家を巡っても良いと許可は出たようです。そんなことをしてまで？と辞めた家も少なくありません。子供たちは仮装して学校でハローウィンをしたようです。お化けといわず、ありとあらゆる仮装姿の授業も楽しいかもしれません。

友人は2週間かかって孫の衣装を作り、うさぎ姿とアルパカ姿の孫を車に乗せて、学校に送って行ったようです。この時期だけは、どんな異様な姿の人たちがいても、皆、拍手喝さいで見送ります。

「近所の子の訪問はしないで、家の中のあちこちにボンボン(フランス語の駄菓子)を隠しておいて、探検させて見つけっこをさせるわ。」

友人はそう語っていました。さすが、元大道芸のプロデューサーのアイデアは素晴らしい。

「ご主人はどうするの？」

「勿論、一緒に探検よ。ボンボン大好きだし。」

あの大きな体でボンボン探検隊に入って、家の中を這いつくばっている姿が目につくようです。マルセルマルソーにパントマイムを師事した、どこか狂気を帯びた目つきのご主人は、コロナであれ、コロナでなくても、常にマイペースで芸のイベントのプロデュースの企画を練っていると。。。常に自主隔離状態なので、時勢に左右されることはないようです。

いつもはお化けでいっぱいのは、今年は、かぼちゃの飾りもなく人影もなく、ひっそりと沈み込んでいます。ハローウィンにお化けもゾンビもないなんてなんてことでしょう。それとも、コロナで皆ゾンビになってしまったのかもしれませんが。

もう一人の友人は、仮装した孫が家に来たものの、家には入れず、2メートルのディスタンスをとって玄関口で話しをして、お菓子をあげて、終わりだったようです。コロナを避けて善良な市民であるというのもコントロールのいるものです。コロナも人も、それぞれ捉え方や処し方が違うようです。

ドリトル先生ですか？ドリトル先生は、船を陸に揚げ、マリーナに行く用事がなくなっていました。船は少し修理をした上で、これから春まで冬眠に入ります。とうとうクラブハウスで生ビールを飲むこともなく、ソーシャルディスタンスのせいで家族も誰も船に来ず、一夏が船と一緒に孤独に過ぎて行ってしまったようです。ドローンは、何もかもかたずけてしまった冬のテラスで、晴れた日に厚手のコートを着込んで飛ばしてみることもあります。とはいえ、凍える指で、遠くに飛んで行ってしまったドローンの操縦は難しいようです。

ドローンもだいぶお利口になり、風が強いと、

「強風のため、帰宅します。」

気温がマイナスになると

「寒すぎます。帰宅します。」

と勝手に家路につき、目の前に強制着陸をして、ドリトル先生をびっくりさせています。

「僕よりずっと真面目でお利口！」

そうですね、帰宅命令のチップはドローンよりドリトル先生に入れておいた方が良さそうです。ドローンもこの寒さでは、そろそろ冬眠かもしれません。かといって、家の中ではマダム田中が目くじらを立てているので、これまたドローンを飛ばすのは困難です。退屈極まりないようです。

コロナのネガティブな世の中でも、若いって素晴らしいですね。娘は大きくなり始めたお腹を抱え、新しい家への引っ越し準備に余念がありません。家具を買い揃え、赤ちゃんの洋服やベッドなどを買い揃え、新しい家族の暮らしに忙しくしています。新しい仕事も順調なようです。マダム田中は、忙しい娘のために料理を作っては、せっせと運んでおります。

9月に再婚した義理の長男も新しいパートナーとの間に、娘より2ヶ月遅れて子供が生まれるようです。二人とも41歳、双方ともに3人目(長男、パートナーともに二人の連れ子)の子供になります。一家では5人目の子供になります。パートナーは、仕事の合間に少し大きくなったお腹を抱えてテニスの練習を息子と続けているようです。競争の激しい金融業界の仕事、育児、テニスとできるだけのことを続ける根性は幸せで支えられているようです。